

自分のおかれた場所「持ち場・立場」から運動を進めよう！

論語 学而第一 『子曰、巧言令色、鮮矣仁』とあります。「巧言令色、すくなし仁」と読みます。その意味は、「誠実さの欠片もなく、口先だけでうまいことを言い、権力者に対しては、うわべだけで愛想よくとりつくろい、こびる人には、仁者はいない」ということです。

またある時、孔子は弟子たちに「仁とは何か」と聞かれ、ある時は「人にされてイヤなことをしないこと。」またある時は「難しいことを先に行い、利益は後に回すこと。」またある時は「言葉を選び、慎み深くあること。」またある時は「丁寧に振る舞い、人のことをあれこれ言わず、受け入れる。誠実であれ。よく働き、思いやりを忘れないこと。」またある時は「まず人のことをおもんばかることだ。自分が立ちたい時、人を立たせる。自分が行きたい時にはまず人を行かせる。人のことを自分のこととすること。」という立場に自分を置くことと答えたそうです。

「仁者」にはなれないけれども、「支え合う」ことや「助け合うこと」は、人と人の信頼関係をつくり、培う上でとても大切な行動であるとともに、多くの人にとっては当たり前のことでもあります。

— ・ — ・ — ・ — ・ — ・ — ・ — ・ — ・ — ・ — ・ —

小学校2年生の国語の教科書に「スイミー」という物語が載っています。

広い海で小さな魚の兄弟たちが楽しく暮らしていました。スイミーはその一人でした。ただ、兄弟たちがみんな赤い魚だったのに、スイミーだけは真っ黒で、誰よりも速く泳ぐことができました。

そんなある日、恐ろしいマグロが、おなかをすかせて、ミサイルみたいに突っ込んできて、一口でスイミーの兄弟たちを飲み込んでしまいます。泳ぎが得意だったスイミーだけがなんとか逃げて助かります。

兄弟を失ったスイミーは、さまざまな海の生き物たちに出会いながら、放浪するうちに、岩の陰に隠れてマグロに怯えながら暮らす兄弟そっくりの赤い魚たちに出会います。スイミーは、一緒に泳ごうと誘いますが、小魚たちは、マグロが怖くて出てくることができません。

そこでスイミーは、マグロに食べられることなく、自由に海を泳げるようにするために、スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。そして、みんなで集まって大きな魚となって泳ぐことを提案します。そしてスイミーは自分だけが黒い魚なので、自分が目になることを決意します。

そして、マグロに対して一緒に泳ぎだすとき、みんなと2つに約束をします。1つは、「決して離れ離れにならないこと。」もう1つは、「みんな、自分の持ち場を守ること。」この2つです。

かくして、小魚たちが集まって作った大きな魚は、マグロを追い払い、岩陰に隠れることなく海をすいすい泳げるようになった。という話です。

学ぶことは、①スイミーの新たなる発想と想像力、②自分の持ち場・立場を守ったこと、③決めたことを総がかりで実行したことなどがあると捉えています。





連 合

私たち組織労働者一人ひとは、自分のおかれた場所、持ち場・立場から運動を進めていきます。それが私たちの「生き方の選択」です。

そして、自分のおかれた場所で、仕事や組合運動、仲間との交流などために「時間を使う」こととなりますが、「時間の使い方」は、そのまま「自分のいのちの使い方」となります。

働くことを軸とする安心社会は幸福を追求します。人間の幸福は、「奪い合う」ものではなく、「分かち合う」ものです。「悲しみ」を「分かち合う」ことができれば、悲しみを分かち合ってもらった者だけでなく、悲しみを分かち合った者も幸福を実感できます。

労働運動を通して、すべての働く者たちで幸福を分かち合うために自分の「持ち場・立場」から取り組みをすすめましょう。